【文部科学省】　31~33教育課程特例校（徳育科）
【都教育委員会】　28~オリンピック・パラリンピック教育推進校　　28~学校と家庭の連携推進校
29~学校マネジメント強化モデル事業実践校
【市教育委員会】　25~武蔵村山市ＮＩＥ推進校　　26~「徳育科」推進モデル校
31　小中一貫教育推進校（五中校区）　　ラオス・パチュドン校姉妹校

徳育科のパイオニア　コミュニティスクール

八小だより

武蔵村山市立第八小学校　令和２年１月８日

http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html

教育目標
◎ 考える子
○ 思いやりのある子
○ やりとげる子
○ 礼を重んずる子

行動目標
わけをそえて話すことができる子
教室で話しているのは一人

飽食の時代を考える

校長　牧　一彦

「肉が食べたい。」
子どもの頃夕食の支度をしている母に，いつも言い続けていました。私の家が貧しかったのかも知れません。いやそれだけではなく，昭和４０年代の日本は国全体が，まだ貧しかったせいでもあったと思います。我が家の食卓に肉料理が並ぶことはそんなに多くなかった気がします。せいぜい週に１～２回だったでしょうか。毎日のように食卓に並ぶ野菜の煮付けや，やたら小骨の多い魚を見ながら，
「また魚か，肉はないの？」
と文句を言うと，厳格な父はいつも，
「戦争中を思え。自分が子どもの頃は貧しくて，弁当も持たせてもらえなかったんだ。白いご飯が食べられるだけでありがたいと思いなさい。」
と言っては，叱りました。
「みかんは，１日２個まで。」
我が家にはそんなルールもありました。一度でいいから食べ飽きるまでみかんが食べたい，そんな思いから，お年玉や毎月もらうわずかばかりの小遣いを持って八百屋に行き，みかんや梨を一山買ってきては，自分専用の紙袋に入れて冷蔵庫にしまい，１人だけで食べたこともありました。
また中学生の頃，親戚の結婚式の披露宴で，「伊勢えびのテルミドール」を生まれて初めて食べた時，「世の中にこんなにおいしい物があったのか」とひたすら感動し，「大人になったらお金をいっぱい稼いで，この『伊勢えび』というやつを腹一杯になるまで思いっきり食べたい！」と子ども心に思いました。

今の子たちはどうでしょう。
先日夫婦で寿司屋(回転寿司ではありますが)に行ったときのことです。まだ小学校に上がるか上がらないかの子を連れた親子連れが，向かいのカウンターに座っていました。
「うに！」，「いくら！」，「大トロ！」
子どもが食べたい，と言ったものはすべて親が頼んで与えていました。その子の前は，金色や銀色のお皿でいっぱいです。自分が子どもの頃ではあり得ない光景です。
（この子は大人になって，何を楽しみに生きていくのだろう。もちろん食べ物だけが人生の楽しみではないが，子どもの要求が何でもすぐに満たされることが，果たしてその子の幸せにつながるのだろうか。）

人は幸せを求めて生きるのだと思います。憧れや夢を追いかけているからがんばれるのだと思います。物が豊かで，何でも手に入るこの時代が，子どもたちの幸せや，前向きに生きるための意欲を，少なからず奪ってしまっていると感じているのは，私だけでしょうか。
幼稚園に通っていた頃，新しく売り出されたかっこいいおもちゃの「テレビロボット」を，決してすぐに買ってはくれなかった父の気持ち，決して贅沢を許さなかった父の思いやりを，この頃また思い出しては，噛みしめているのです。

新しい年を迎えました。本日行われた第３学期始業式では、全校の子供たちの元気な笑顔を見ることができました。子供たちのさらなる幸せを求めて、教職員一同、英智を集め全力で取り組んで参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。